

## 〈地域連携ビジョン〉と〈チームたすけあい〉 をつくろう！

オルタナティブな地域包括ケアシステム研究会座長  
NPO 法人ワークーズ・コレクティブたすけあいぐっぴい 中村 久子

### 「オルタナティブな地域包括ケアシステム研究会」 を設置

生活クラブ運動グループ（生活クラブ生協・神奈川県を母体として生まれた様々な運動や組織）は30年前から、誰かにお任せにするのではなく、市民の参加によるたすけあい・支えあいの仕組みを主体的に作り多様に実践してきました。

今日、貧困・格差の拡大や年代を問わない人々の孤立が大きな社会問題となっています。私たちがこれまで培ってきた参加型福祉のコンセプトやノウハウを活かして、制度依存から抜け出し、市民の参加による柔軟な取り組みを拡げて行くことが、今、求められています。

団塊世代のすべての人々が75歳を迎える2025年を見据え、地域における多様なアソシエーションなどによる生活福祉ニーズに対応するワークの創出と拡充に向け、2016年7月、参加型システム研究所の自主研究会「オルタナティブな地域包括ケアシステム研究会」が設置されました。研究会では、オルタナティブな地域包括ケアシステムの具体化に向けたシミュレーションのために、3つの対象エリア（茅ヶ崎市、横浜市西区・保土ヶ谷区、川崎市幸区）を選定し、研究会メンバーが中心となり、当該エリアの生活クラブ運動グループによる議論をもとに、「地域連携ビジョン」を作成しました。また、たすけあい・支えあいのアソシエーションである「(仮) チームたすけあい」の検討と具体化に向け、生活クラブ運動グループによる共有と連携の促進を目指して提言をまとめました。

### 「地域連携ビジョン」とは

「地域連携ビジョン」では、自分たちが住んでいる地域の現状は？行政の福祉計画の方向性は？私たちの参加型福祉はどのような歩みをたどり、現在はどのような状況なのか？その成果や課題は？地域にどのような生活福祉ニーズがあり、どのような活動やサービスが必要か？拠点や活動主体の必要性などの視点から、情報や意見を出し合い問題意識や課題を共有しました。

### 「(仮) チームたすけあい」とは

国の地域包括ケアシステムでは「施設・病院か

ら地域・在宅へ」が掲げられていますが、生活支援サービスの担い手不足は深刻です。地域包括ケアシステムの目玉である「総合事業」の「住民主体による支援」が、その受け皿となりうるのか危惧されるところです。

「(仮) チームたすけあい」とは、在宅福祉ワークーズ・コレクティブ(W.Co)と連携・協力してコミュニティ・オプティマム福祉(地域最適福祉)の一翼を担う新たな活動主体と位置づけられます。個別多様な暮らしを支えるしくみを、生活クラブ組合員のネットワークと組織力、W.Coの経験やノウハウを活かす一体的な連携で生み出していこうとするものです。組合員やその家族、W.Coを卒業した人たち、地域の有志などがつくるボランティアアソシエーションです。参加型福祉の活動に参加する人を増やしていきたい、特に私が期待するのは自分や家族の「食の安全」の問題から一歩社会に踏み出した生活クラブの組合員の方たちです。

生活クラブ運動グループでは、すでに多世代交流の場やひろばが各地で展開されています。「(仮) チームたすけあい」は増え続ける空き家や、既存の施設を活用して、多様な活動が交差し、交流する「居場所・たまり場」の拠点づくりや運営する担い手としても期待されます。

運動グループには、生活福祉ニーズに対応してきた30年にわたる参加型福祉の実践があります。このことこそ国が進める「住民主体による支援」を地域で具体化して行く時の先行モデルになると確信しています。

運動グループが培ってきたネットワークやノウハウを活かして、たすけあい・支えあいによる参加型福祉の社会化モデルづくりへ向けて、「地域連携ビジョン」ならびに「(仮) チームたすけあい」を一步前へ進めていきましょう。

### 「(仮称) 地域連携ビジョン連絡会」の設置を提案

同研究会の「報告書」で、意志ある団体・組織による「地域連携ビジョン」ならびに「(仮) チームたすけあい」の検討・議論の促進をめざして、「(仮称) 地域連携ビジョン連絡会」の設置等を提案しています。

(なかむら ひさこ)